

環海異聞 七

			二七四一九	和書門
一	一	八	號	
六	四	九	函	類
冊	架	函	號	

庫	文	閣	內	
六		二		和
五		七		書
函		四		
	一	九		
九	六	號		類
架	冊	號		

內閣文庫	
番號	和 27419
冊數	16 (8)
函號	185 130



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak 2007 TM Kodak



環海其間卷之七

大度里程卷十二

アリス
以天、假邦の御天、我邦の御天

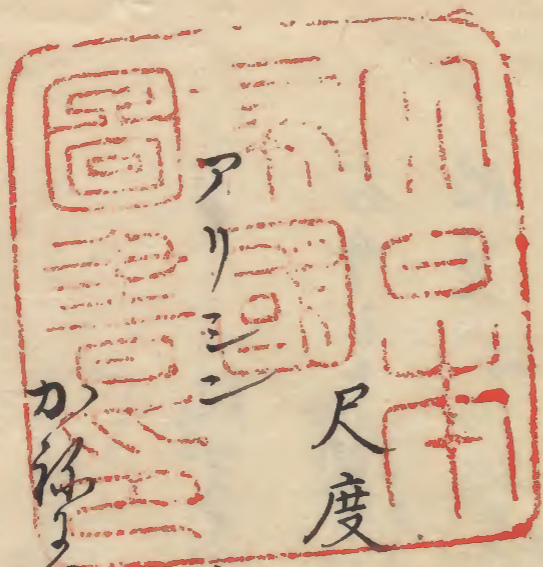
カ
か、我邦の御天、我邦の御天、我邦の御天

アリス
アリスにニツを合せて、我邦の御天

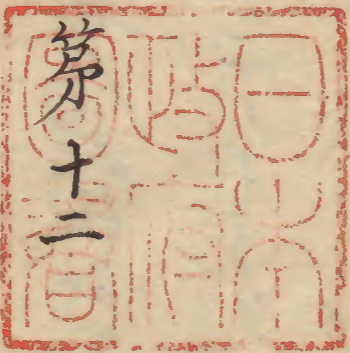
サ
サ、我邦の御天、我邦の御天

サ
サ、我邦の御天、我邦の御天

環海異聞卷之七



尺度並里程



は尺ハ彼邦の歩尺

我邦の歩尺守なり
程何里

か條にて作りたる物とて書く高唐より倭に於

アリシニ三ツを合せたる尺を

サシニ

とツカホりて作る工^{ダイク}通杯^{ダイク}は^{ダイク}二色を

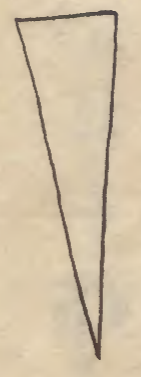
長^{ダイク}よ^{ダイク}よりけ^{ダイク}方の曲尺よ^{ダイク}合せ見^{ダイク}る^{ダイク}よ

明治十二年

七尺あり 波邦 此アリシをせふよりなるを

ホアリシシ とろよ ホハ半と マツツよなるを

セチエヒユルト さりふなり



マカ 曲里うぬぬそめ作り

たるとのこ

右サシシ 此方の七尺 さりふ尺六百合せらるが「ウー」区

波重 なり此方此 拾を丁むらりとすゆ

邦内道中を里毎に抵抗建てあり寛政

初年松前を先交を伴ひあつりし人数
の円イツンヘリパイ匠を日本人の種子之今
波邦換地の役を勤む日本の一里とろよを箱
館の松前のると同をオロシイアの
三里半の月がーぬけるを滞流人在津し由

附

サレ 間を多橋重富オロシイアの里法を和常
天文書に説く所を以て考ふ説

アリシニ 彼邦 我方曲尺部尺 夫寸陸分 他厘

ポアリシニ 彼邦 我方曲尺 毫尺 寸 八分 部厘 毫

ゼウエル 彼邦 我方曲尺 伍寸 九分 毫厘 部毫 五絲

サゼニ 彼邦 我方曲尺 七尺 〇 九分 毫厘

ヨールス 彼邦 我方曲尺 九町 八分 五厘 四七 毫里 寸 廿

茂實 丙寅 初秋 間氏を日天臺の彼宅より訪

光を更あり命をり 禮次はるより及光を更日

彼六尺の細サゼニを部厘の七尺零八分一角

サゼニ 五百合せて彼を里ヨールスなりといふ

仙臺 漂客のりふ而といふの差へあり是尺

の名サシニ一里の名ウヨールスも稍お遠せり

此尺光を更り能張する而 的實より寸の

サゼニ 光を更り毫へするの尺を以能とあり日

更り毫花射し御むらよサゼニ 部尺より七尺零八分

六百を合すと八二千六百四拾尺 二百廿二 四丈

こゝ部方の九町ハニ々々あり部

邦の毫里ハ貳千百六十百りて毫万部ハ
九百六十尺なり倭國今考すも

魯西亜の二里六くハ日本の毫里なり

同十里ハ 同部里七三二八之

同百里ハ 同部拾七里二二八之

同千里ハ 同部百七拾二里二二八之

同万里ハ 同部千七百二十一里二八之

印緬中被里數を化せるものハ此算法ハ合

せそ考へ知るべし 和葉を裁する所と又仙臺漂客
考へ来るものハ姑く存す

仙臺漂客等リハイルフツカたり 彰都トトル

フカとハ彼里數七千里ありと右算法ハ誤ハ

我 邦の千九百拾部里の二六なり

漂客等曰け七の里 セムテイチツザを出入

直してりハ實ハ六の七百里あり公用ニ

て往來を造ハ六の七百里の結實を拂へる

をあり高海の直目ハ七の里なり

元年 元を更り純を名るより八百里と
有り一書より六千九百八十式軍之あり 南極の
得りあり 此日 元を更りより タビ 千に布りたる
純より福するものあり 此の里敷 略せず
候 布り純す。而ハ皆道中一里毎に算斗
せしものありハ 誤り事なり 此の必を六七
ふより敷よりありと云へり 此の事は是
なりと云

元を更り純を名るより八百里と
トルブルカをハ 彼里敷より 是方より 三百
之指を里よりと云ふ これそ大略を
りしものと云 此
説とすべりしものあり 御し我
邦の里敷より 改算し 是道ハ 三千二百
六千八里を九なり
尚使 首推し 来り 友多 へ ありし 魯西亜
布 既 越 玉 地 是 より 天 度 を とり 付 け る 物 を

披きて新都よりペトルブル辺カミニヤーツカとの

東西直径を測り、その一方の里較りて

数千或百部十八里也 按、常々此等玉を中東西二百
七、八里分、昂部拾八里

七八里部分昂部拾八里

七町拾部

性還の及、終ハ三低屈曲も、ろろ多る、是ハ、甲の、有、終

里も、何、之、き、終、南、北、と、亦、約、百、里、と、い、ふ、是、ハ、此、終

玉、返、定、の、気、候、不、毛、の、地、多、一、と、い、ふ、も、其、節、終

あ、す、西、の、別、郡、突、し、世、界、中、一、の、鉅、邦、と、い、ふ、し

タイ、コ、シ

秤量第十三

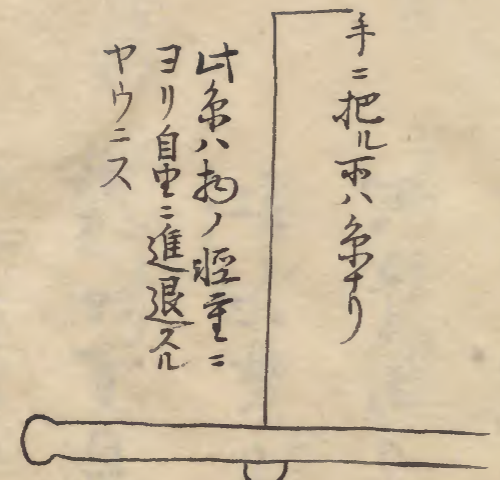
法馬 分洞也 分洞也 をベチメに、とりあ

物ヲカリル

コニ輪金ヲツケオク

サハ 衝ハ金子ニテ作ル如此ギボウニシ

サホニツケタル物ナリ



フンドを、九拾、二、反、の、法、馬、亦、是、を、被、り、百、反、ま、り

け九拾五の一寸と づロジニカと子昂とを
九千六合寸とハフドとある也

ブート 我方の貫目 光を交ハロ貴物拾五の寸子

釘チキリハロ貴物ある也 又その寸より下シツ

あるもあり大なる物ハ何拾貫目とりし

大量をわける物もあり 幸キきるハハハハ

升ハ本とりし物見交を貴物多く目買よす也

徳島バカリ祥ハカリとかけ賣買をある也

樂器 第十四

琴 ゴウシケ 絲ハ決のちりくぬちりてしゆ

桐もちりて中弦なり

笛 ドウチカ 継笛なりはきめよ六張の輪をかく

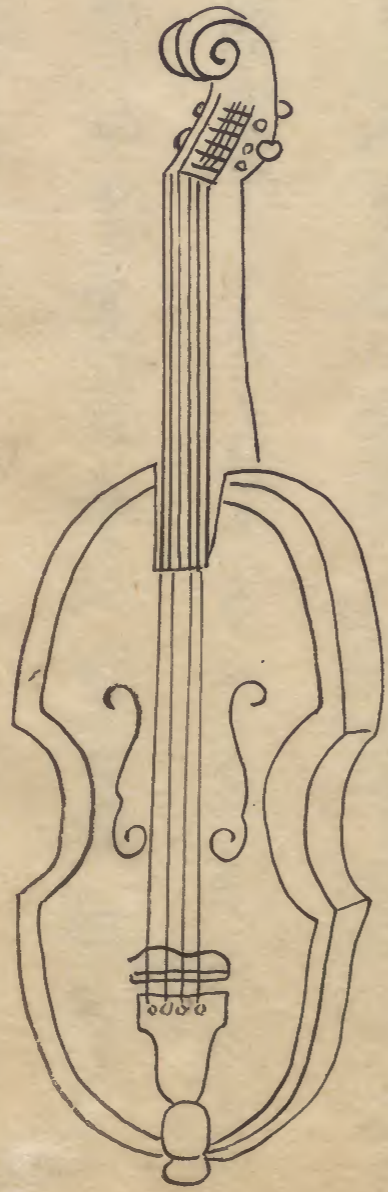
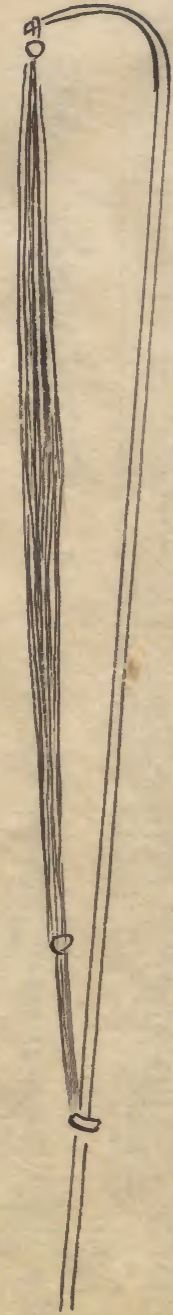
ふちり 口よ合えぬく笛も各六張なり

胡弓 ケレプロ 明の方をたりの缺盆骨のトつき

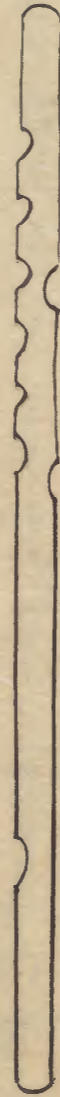
くけてすりある也 肩下胸の處へ接する
大骨のちり

三弦 バライカ

ケレプロコ

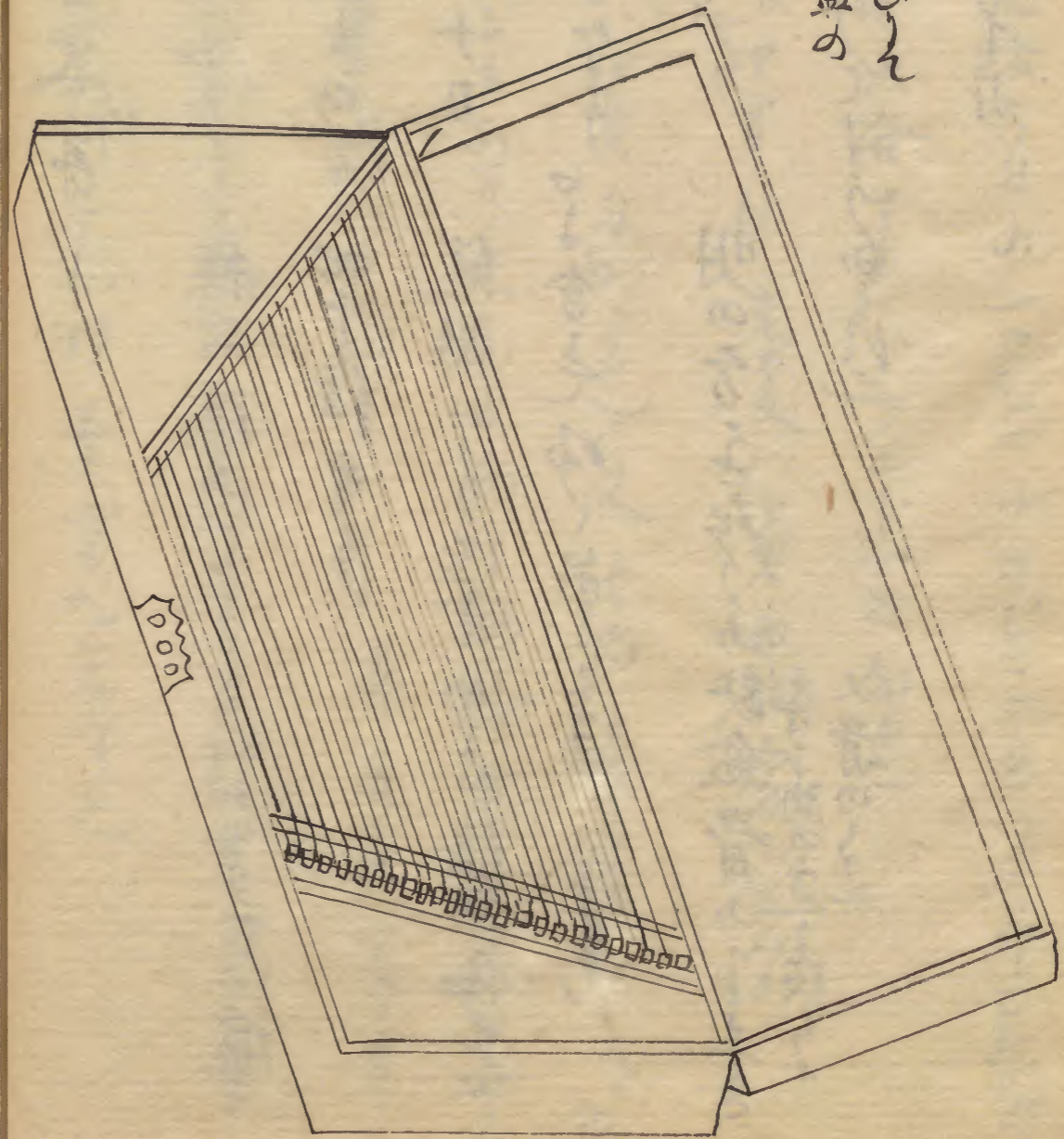


ドウチカ

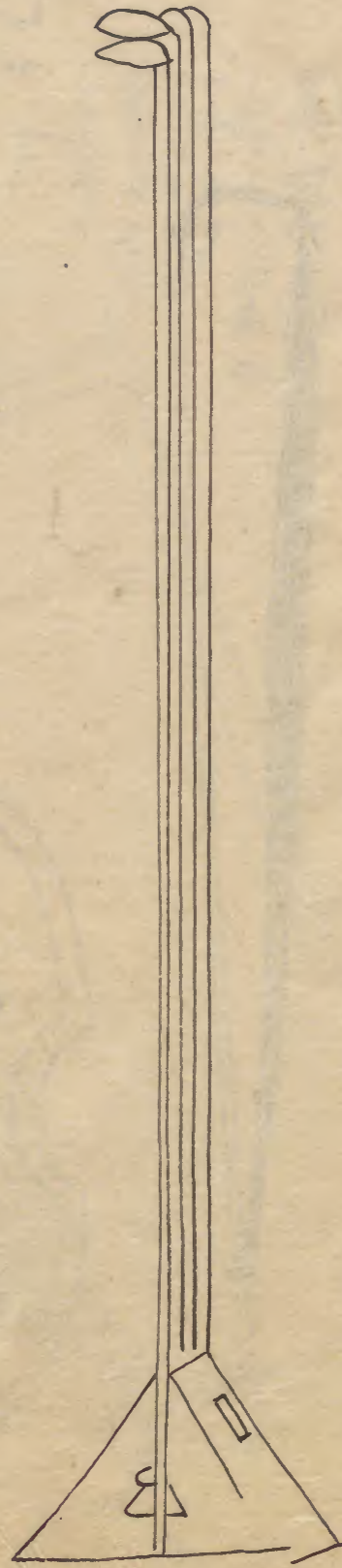


コーシケ

フタ
蓋ハ蝶はこいし
くせふさこいし蓋の
ウチウチ
そよ曲柄の
きりがた
けてあり



ハライカ



大鼓 バラバン

又モサシ人モウリトモ先キ急ク飛キ布の才旋回

能くまき丸

吹とのあり名ハ右左

梅は和常よりトロムペット

ハ階樂等ワウクある手なるよんるめす

これ等の名実あるの時角也都府^{ミヤコ}と

雜劇^{ニゲイ}をんごのよまの世樂等を以て合奏ス

樂人^{シタカタ} 舞臺の前より並指^{ホニブダイ}て及多しと戯子^{ヤクシヤ}

舞踏するなり
キヤウゲン

乳令身十五

徳篇は終くするは熟きよりりく後一りかくなり
子よ終りて裁する後もなき也

耕農第十六

田六たりく畠圃のとなり地をすきて麦熟を教一府
め一糞土を用る事あり一菜蔬とて十日一九十月
の民海砂の上とて麦熟をすこあする事徳篇
よ出せりりや一他よ録すへまりのれ

交易第十七

徳篇は教一七略裁あるも此や一そま和なり
て高法色品等の事ハ詳細ありしを好む

醫療第十八

口科をトノトル和菓も
口定也外科をレ一カレトヨ子同
伴の者とも一年疫疾を始一とき醫師あり
て診脈一何とと一白き粉粉業を一係よ豊なり
療治中身子も足病を始り始終轉りなき

指しを白儀の瘧疾を病し一時瘧疾の病を
 ぬき^せす^り業ハ此へ屯大熱ありて大便秘結
 一^ニ肛門より水鏡し^ニ業あるを^ニ汗時を^ニなく
ミツテツボウ
 通し^ニつる^ニより^ニは^ニ瘧疾の^ニも^ニ病み^ニらる^ニあり^ニし
 友友業せ^ニたり^ニき^ニ酩酊^ニあり^ニし^ニ酒^ニを^ニ飲^ニむ^ニり^ニし^ニる^ニも
 一^ニに^ニ藪^ニ草^ニの^ニ目^ニの^ニぬき^ニ物^ニ一^ニ抄^ニ斗^ニあり^ニる^ニ角^ニよ^ニフラスコ
ヒキガシ
 入の水業^ニつら^ニく^ニあり^ニる^ニを^ニ見^ニら^ニり^ニ又^ニ是^ニの^ニ脱^ニ履^ニせる
 病人を^ニ銛^ニし^ニて^ニひ^ニき^ニ切^ニり^ニ瘧^ニ疾^ニ治^ニせ^ニし^ニ「ヤコーツカ」

一と^ニア^ニン^ニナ^ニリ^ニモ^ニ非^ニ他^ニ家^ニに^ニても^ニ医^ニ療^ニの^ニる^ニん^ニ當^ニら^ニす
 故^ニ業^ニの^ニ極^ニ子^ニと^ニア^ニン^ニサ^ニシ^ニす^ニ病^ニも^ニ何^ニく^ニと^ニり^ニし^ニ病
 あり^ニる^ニ者^ニ一^ニく^ニ知^ニら^ニす^ニツ^ニン^ニガ^ニこ^ニり^ニし^ニ病^ニハ^ニ多^ニき^ニ極^ニ子
難事の時
 たり^ニ難^ニ事^ニの^ニ時^ニ一^ニと^ニせ^ニ大^ニな^ニ瘧^ニ疾^ニの^ニ流^ニり^ニせ^ニる
後
 あり^ニる^ニ者^ニ一^ニく^ニ知^ニら^ニす^ニ

物産第 十九

動物

魚

アレバ

サケ

ケツタ

鱒

グロポーニヤ

鱈

乾^シ物^カ

比目魚^{カレイ}

鮫トス

鯨

ケトツ

右ハ嶋トモツノ名目ナリ

章魚^{タコ} ア、テ ニれハカニヤツカ後ナリ

イルコーツカ色ハバイカニエツ湖ナリ

魚^{シホ} 鱈^{ツケ} 魚トモツノ名目ナリ

オツモリ 鱈^{カド} トモツノ名目ナリ 又江ノ名目ナリ

ツノ魚トモツノ名目ナリ

オニヤテレナ 鱈^{サノルイ} 属^イ 仙臺ノ海トモツノ名目ナリ

又ツノ名目ナリトモツノ名目ナリ

貫目^イ 何^イ トモツノ名目ナリ

左平^イ 管^イ ハイカル湖^イ へ^イ 移^イ きた^イ 所^イ 拾^イ ぎ^イ 貫^イ 六^イ 貫^イ 目^イ の^イ 魚^イ を^イ 採^イ る^イ と 背^イ トモツノ名目ナリ

右^イ の^イ 上^イ き^イ の^イ つ^イ く^イ 項^イ トモツノ名目ナリ

い^イ 不^イ く^イ あ^イ り^イ て^イ 二^イ 分^イ を^イ 分^イ け^イ る^イ 此^イ 棘^イ 刺^イ を^イ 生^イ す^イ 腮^イ トモツノ名目ナリ

鰓^イ トモツノ名目ナリ 水^イ 吹^イ の^イ 小^イ 孔^イ ある^イ 皮^イ 全^イ く^イ 沙^イ 魚^イ ナリ

皮^イ 付^イ キ^イ の^イ 方^イ ハ^イ 黄^イ 色^イ 裏^イ ハ^イ 白^イ 脂^イ 多^イ く^イ 骨^イ も

味^イ 美^イ あり^イ 定^イ 市^イ ハ^イ 生^イ 魚^イ トモツノ名目ナリ

かしらそあはるはな付ハ塩漬〜して送るあり

左平等バイカル湖へ漁獲しけり
たりのけはふよ記す

オクニヨ 取石首魚の〜但取らよるる〜七寸

より二尺五寸位よそあり肉白し尾をき

方よりけ魚ハ夥くあり 右三種ザ〜モ〜リヨ扇
バイアル湖よ産す

ハロス あいあめ 仙臺のちか
ぬらまじり のときき魚也 イルゴツカ
也辺の川を

鴨く海も揚ケ漏
よそ煮食す

タイメン 取細の〜全身白し肉も白く味美之

ナレマ 泥鰌の〜〜〜〜〜子也

大魚〜〜〜〜〜三費目程あり

カラシ 鮎 近左川より

- | | | | | | | |
|----|--------------|-----|-----|--------------|----|------|
| 蜘蛛 | 蚕 | 蠅 | 蚊 | 虱 | 蚯蚓 | 蜜 |
| | ブーカ
大光オ、ヒ | モーハ | カモル | オ、ヒ
大光フセイ | | シヨート |
| | 蜂 | | | | | |

蛇

ジニヤア
シミヤ

蝶

ツスノーコ

鳥

ビツゼイツ

鴉

カニガラ

雀

鶏

雄バイトウカ
雌コーレツ

允テ雄鳥ヲバイトウカトシ

卵

ヤエツザ

燕

ツバク

夏の月土を食て巢するは子同し

鴈

グーシ
コーシ

三四月の鳥あり鳴る時ハ何と云ふ

るを志す人亦よ高ひ至て野くあり養

焼きして食料とあす 飲食の類は詳し

鷺

オートチカ
オットチカ

高ひ至て食料となす

雉

ゴロハリイ

大サ層の鳥〜雌をセシト云ふ

鳩

ゴロフ

食料とあす

かららん鳥 インデイツケコーシツ 又インデイカ

けさハりともより高きなり上等の人の食料と

す中より以下の人ハ鳩等の子を食す其の時

のミはりもケセロフに取ハ四六十も高きてあり

按よインデイツケ・コーシツハ印度雞の鳥也

原一和堂よはカラクレーンセホーゲルヨ
カラクレーンは印度の一地名のーホーゲル
ちちなり我邦よはカラクレーンテウとハ
ハ得り之漢名印鵞難ありー

鵞

鵞くあり 尾の長き多 名ふや
名不元

雁

雁くあり 雁の名ふや

其物を見そ名を忘るるとりし物も字斗り
を載せおりの事前のと

ワール

ワール 止白里の名産也皮衣中のを上

ぬとするおなり珠よバイカル湖の産よて

ぬり獲るおをよて上取す

ドニコスリと射
ぬりこれを射す

ぬりの 吏人アコガリウケとゆふふふふふふふ
五十九枚皮片七十枚は彼邦返用張るよて

大サ猫よりハ大ーと拘よりハ小サし恰も兎

種あり毛細く長く黒色と赤を帯ひ

ソトボリ
 兎 貂 図



ぶて身よりししてらつこほし〜後の如く赤色
 なりとも〜怖るべき狗丸あり面舐猫の如く
 黒色 髯の長サ猫の胸のびらるが如く〜
中略
 以上の人々此後種々用ひ置皮を縫合せしむるお
 ぎ扱ひ平撫せしむり

右物種まゝその形状よりして形よ圖を
 作り是を平す被赤く暗記ある所を以て
 是正を以て依て昂すも圖状たの〜

梅にソールボリと貂鼠あり浮土北色は虎の
産するは徳書に及く古来は皮を以て珍重
すりて貂鼠は續以約尾等の流も五三
和蘭よハこまをサーへ此とりは彼獣儒の國
況あり又北靴止白里地方此るを記載す
と中よ亦詳細を記せり次よ天工笥物よ
載するを考へ又少壯者山の石虎を附
しそ考考の一と次

天工用物貂鼠産遼東外徼走列地及朝鮮國其
鼠好食松子夷人夜伺樹下屏息悄聲而射取
之。一貂之皮不盈尺積六十餘貂僅成一裘服
貂裘者立風雪中更暖于宇下眯入日中披之
即出所以貴也色有一種一白者白銀貂一純
黑。一黯黃色而毛長者近值一帽套已五十金

貂鼠

事物異名

蒙古字曰不魯還朝鮮トツヒ朝鮮賦徼

其裘舶來アリ裏面ヲ見レハ至小ノ皮マテモ繼

合セ製ス毛柔軟ニメ白色コレハ銀貂ナリ紫貂
ノ皮ヲ帽縁ニ造リタルモノ舶来アリ裘帽風領ニ
レナリ帽縁及裘領ニ用ユレハ寒風ヲ防クト云

猫 コーシカ 尾長短二種有リ蒙古の産ナリ之

ワ猫の毛をうると見エーよ毛大しそむいぬ
のめくゝとて珍貴のおとせり

嵐 ヌイシ

犬 フバカ 日本のみきおあり又耳長く西の

せきも あり又下腹きまあがると大なるもあり

豚 シユシヤ 毛黒或曰又斑毛もあり子育りの豚

此卵ハ皆キニク墨丸を去リ膏くして食料とす墨丸
を去リ膏くするハ肉肥て味も美なる也

牛 コロワ牝ベイコフ 毛色ハ種々ありけお中々日

用の食料とす也

馬 コーニ牝コーニ牝カホラ 三ツ日ちよカカホラ

るの卵ハ皆墨丸を去り膏くするハ

かしはよくをるをかけたも草飼を又小鼻
をきりてこまを^{イキ}をきりぬあふあすこふ
飼料ハ雜草もろまや田野中も飼料なり
こま路との相場ありて惣國あり草生
すれハあお芥里おて干し馬きこま肉の飼
料とすニ産生への草生ししる付そを産
粒足のるをちちて織り食もしむ水行
むきつむそ飲しむる也なり

羊

バラニ 毛色黑白又斑もあまちこまを

^{ガサ}帯とほとかせハ蹄のゆくあるこまを以て羅
紗類の毛織を織是又皮をとむきし
賣買すを紋の價をきし

綿羊

ヤマニ 毛きくして葉^{ワラミ}葉をよむたか

叶毛をとり大まき糸にすり麻布に織是又るの
皮し種とのるよ用の上品なり保毛皮ハ羊
ウ毛上とをたしハヤマニ綿羊の皮也又るハ

ハラニ 羊の皮ハ白面也

野牛 フジヨウ 羊に似たり此草ハ地の皮をとりて

好之 母よりなる也 皮とりて敷の如ハ是なり

木鼠 ビヨコ
キ子ツマ

兎 オシカン 皮ハ衣服とあすりて暖るよの也

物魯西亞人ハ食料とあすり凡ツ 麩麩 犬猫の是

跡のつきことのハ食料と兎も猫足の如くあすり

倭ヤコーテブライツケハ食料とあすり

鹿 オレニ 皮を剥き月の草にも作のドレコスハ馬

の如く使ひ荷を結して糸を引くこりや又乳

汁をとりて牛乳の如く月の毛色よ色と程

麩あるもや色落く斑ちるる皮をもつんを

梅ハ一種刺麻トシニといふ所の地ニニテアリニヤルリ
をえ曰世方此のきを麻御方よ(角)角ひくめしてオレと
つりとの此方の麻とまひの角にズイやく毛短く皮厚
又この角白りくのもを白犀角の如く又牛角ニ似たり大成(大糸)

野猪 名名兎 毛を取去て食料とす

猿 サシガ 尻長猿を 棉猴ハ見更す

熊 ミチウエチ 毛色黒又淡赤 羆ある 行くあり

尾 ホース

海^{トバ}瀬 コージキ オレレイツケ。オストロの海中にて
多く捕するを云ふ

海豹 子ルバ

獺^{ラッコ}虎 ボフロウ

駝 名石岡 頂の而も痛あり 惣身毛色赤より黒毛あり
大なるカウタ 尾のイルゴツカの役而も是は頗るを云ふ

按、駝ある

象 スロコ ベトルブルカ都府乃町屋のうちには畜

まけるを見たり 口を四方程の如く入りきり
尺鼻を伸セハ 尺なり 寸尺 俵もなる 牙ハ
攪き切りと云ふて ひき口より斗り 砂より四
脚を鉄の上よりよおきこまらむ け鉄の
横板より鼻より巻くときけり

鬼 ジヤラ け方して画るおにのやま(国)をかく

りあ後帆の若船をうけーマルケイ。ス山考の人を

さーてゼイカといひーこまハ鬼人なり(子)のよ

植物

松 名子覚 立延るるなく幅ををす

五葉松 スノウ 材木新梢枝等にほろり炭よも

やくなり 炭オゴリ 松実オシヒ菓子

よ用ひ油よも志めてつうみ種あり

番瀝青 松根を煮してとる由ゼクツ本

マースラ 脂 スモロ ころみ水よ入る葉

よあり

レイニニシノ 富士松よ似たるおしそ 夥多あり

本をを割りさる程をよを以て梅れハ少

たつ枚核をよの如く立延るなり

ケトロライ 志むの如き松をを実多く附て大さ

一握り程あり能立延る本也 実ハ油よも

用る也

カシワ 大葉標 タブ 老のふとハ美なりよ葉れ松のや

をのひ色又タブとて 葉ふよそかさ本と

ひい綱をと深る木よりき相あはす

ホーツカをりイルフーツカ「長」の長中に多し

大木もんを控るとに使用を

ベレゾウ
ベリョソウ 大木あり木のさうぬ山操りて木中

——くろそ徳村本新等々よ用也

擦^{スネキ}カノハル 他木より来るく——葉をよとに裁

のつらぬさめに入るをを擦^{スネキ}総カスハとツ

カラスナ。セリワ 海帆の良^{アマ}聖利加^{リカ}りて

播よ買求めり——木なり又これよ似る異木

よそ質堅くよそ良材と云るのよそを以て

より求め来るより其傍のよその上ろく^ニ作地

手切^{ハシ}器を使良よ^ニ新ひ^ニ更て^ニ日本^ニよ

作りよりし給失せり

竹カメーシは地竹^ニ更よなり——他邦より

ある乾竹あるのそたを^ニ都府よムスカ^ニモ

マツ^ニて^ニ諸島の産物を^ニ聚る^ニ而あを^ニ以和を

長を丈ニ三人の大竹あり一を八人をもて
海島と云ふは遠きなり此度の使節も是
時よそ船の上アホ生作船中裁せぬなり

穀蔬菜果

米

ビナ 他邦より来る多く南アメリカカシタリ

液るよし糖シラげよて是なり

豆

ゴロフ

大麥

エキメシ

麥カ稗ラ

ワロモ

標ツカムキ麥

エリセメ

蒸餅よ志るをケレフシヨにて

常食と云ふなり

小麦

セニイシノ

菜菔

ライジカ

蕪

ライバ

蕎麥

ゲレシヨウシノ

挽割りて賣買せり

乃布用と云ふこれ黄へやをきかたなり

他の麦類よりハ價式低 銅粉 コトモキ

蕎麥 挽割 コロパ 粉 ムツカ 根コレニ 莖ニケチ

麻仁 麻 コノビロセーニヨ

芥子 セーニヨールハ惣て種子れるをり人召の種

小豆 小豆 コリあるもセーニヨールハ惣て飯令ハ日又

粟 粟 のさぬコリあるもニツホニツケセーニヨールハ

大豆 大豆 りハ麻草ハ一程の灰を晒せしめて漂

大麦 大麦 白なるもの

芥子 芥子 コロゼツサ

葱 葱 ロツコ

大蒜 大蒜 ツスノユ

茸類 初茸 雜松茸 白初茸 志のし 此類を

皆食ふ所なりし 處ふもたしぬりのし

等も何り各等なるもの食料とハせしむ

茸類 五月ハ七月迄 採り食ふ大極

塩漬しして用也 生して用るハ細く刻む

攪割 麦白魚を煮出し一塩を加へ草を入

煮食よ

蕨

名不元 山よ生れ食料とて次 澤草とて

を採り日布を食せりめく 搦ひお強

を波玉の人んて馬のこころなりとて

大蒜

笑ひころ

ヤーボルキ 一種の芋 淡蕪とて我 邦の

芋の色れめきをきいとなりて乾

粉にし菓子よ作り又粉を既製よありか
く名を載せ

西風 アルボース

瓢 タニ 南アメリカを多く見たり

番椒 トウカラシ ベイレッツ ケンイッテ 唐山の交易物よ

来り乾 焦 入りて来る

上よ漢字あり停帆の節 南アメリカの

エカテリナしては物よなりて

たるとのをえらふ

胡椒 コロブシノ圓 ベイレツ又 他邦より来是
アスタラカニツケ地名ベイレツ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

二高 數量 第二十

一 オゼシ ニ トウ 三 テレ 四 チヤライレ

五 ヒヤアシ 六 セイシ 七 セイム 八 オラセム

九 ゼイウエチ 十 セイセツ

十一 オゼシ ナツサイ 十二 トーウエ ナツサイ

十三 テレ ナツサイ 十四 チヤテレ ナツサイ

十五 ビヤチ ナツサイ 十六 セシ ナツサイ

十七 セム ナツサイ 十八 オ、セム ナツサイ

十九 セイウエナツサイ

廿 ドワツナツサイ

廿一 ドワツサイオゼン

三十 テレツサイ

四十 ツーロケ

五十 ヘツシヤツ

六十 セツレタツ

七十 セムテシヤツ

八十 オ、セムラシヤツ

九十 セウエノスト

百 スド

千 テイセツサ

万 セイセツ テイセツサ

二萬 ドワツサイ テイセツサ

土俗風習 第 廿一

婦人ハ乳をあくます常ニこれを隠すあり
 産ム妙好トシとも見受ムルヲ一日本返調役
 トコロコソシの者ありし時其妻初生の児よく
 めーそ始て見たりき

按、河内地方園より右れありし一書も
 徳山澤別セー名所の話をア一書あり
 唐山廣東安南等と云かくのこし

土人多くハ五十二歳歳にして初て妻を娶ふ者あり
これ風俗を考へる所のハ大小何れ一つの功
名を立てる者ハは家の深ワツラさを求むるとりて
子なりおろす事と候ナシたる上とて己ま
より十五より十七八又廿歳をうりも妻を娶
妻をとりぬる

彼も人の寿文ハ同くすなれども中ハ六十九
歳百歳ある人いふも見る由七十八以上の人

を老人スタラとワラとハ六十歳の人ハを若者タモ
といふハ年齢を初て室を有タモりて存タモり
てハ齡の人ハ此妻女を娶て若年なるもの常
に見更ハ也

七十八歳といふ人腰の病を起りたる者蓋し見
す六十歳といふ男ハ重荷をもち又ハ大斧を携
へてを山へ推スりて也且彼人死て色々の骨は
仕業ハともつぬる腰痛むるといひてを言カす

梅下年かき内ハ室を有するは糖元自ら

元実せる如かく活健ありや

男女交會のりる度なりとより年々き重なるん

又遠く久しく傳ふありくと海航の船中よも糖キ

水更たへハ役人より管轄しそ命をかけるりしコツペ

ハ「ガ」マルケイ匹の多雨をそ女人を樂しめたり存の

趣あるれ水もたへる兼てりな本島の淡へ希なるハ

遠るも其のりト一その他の賣女求め樂ましくそ各

彼そ人の橋よ本必洞抄を筒を於へ置れり糖味

の事よ乃少なきやうもあく文くおゆきり

土人若しありて軍服あり付ハ室巾を因歩道遠く

て往來船中通すなり用多ありして流し擠まよ

かりり居るものあり船令ありても船中のるなり

梅下表生あのみよ身軀を運動するを其

何堂院人招も常りかきするトこれを

ワレデレことり遊行間乞とりあまこ海相の
業これに草人百足をみむとりあこ

中もよりゆよの婦人をかをむす夫よおれ業
まうりよそ男よあれハ再嫁せす尼とありそ多く
剃髪ハ ニステライ 尼寺 とりよ へ行くあり知弱よそ男兒
あれハ後事をたてそ子兒をんまそおれお續すりこ
九そ女子嫁嫁なき月ハ提髪なり六六十年あ成
ても同ー根ありれて娘子の事ハゼイフカとりある

さけ髪ありハあよを監とありそもやより人くゼイ
フカとあより女子身おあーま者まそ陰行あり
又是杯のつらき扶持人の娘かと私よお娘よの
雨業あものありこれハ人々あるをせすあまを
まもても生涯ゼイフカの姿よそさけかこよそあるあり
右の姿れ女人ハ人と目をつけるあまそ秘らあるこ
溢死の類れそ自害して死せるものハ佛得 得をケラ
イカとり 家ハ字名もつれの者なりそー其屍を車よ載せ

市中を引早しをよして各控のこくくを葬りて
寺の引早ハ更なるを好すイルカーツカ道中
引早しをよ度と見たり

大富高ケセロロウウ舞舞オホ高向キの富路キ
カコーツカオホーツカ色へキー
持放坊の雨業たありて見ケセロフ方ハ舞
用たずり敵海りて後私りよ鑑死りこれ
固^{モト}より大法よ形をよきるありよ富路の勢

あれ六月の五路舞舞しとつへ病死よと
ありし趣きありしつくの地も今路舞のりよと
とり

煙草ハ男女を弱をしあて積するよハあすそれく
よのむ人あり上等の人ハ財く舞よ此と樂しことする
振子あり煙草ハ金石木磁器振子あり惣名をかこ
廿しとよ煙草よあするおをハトロフコとつ子銀を作り
たのりんより右よりとく人々皆用らよハあすは

海上渡世する人ハ多くハ吃烟すも此ハカ 脚牙痺

と下病を患ふ 別下地す といふ病を防ぐためなりと止白里地方の

種族ヤコーテブライツ迄ハ是れを好み積すも亦

本質あり

漂客等何れも煙草を好み嗜み一ル去産の

業たもこれを求め移るをきりて刻を積せり

去地の人ハ右りやとくあるは是を以て臭し

といひ或ハけむーといひて避けいとひられハ是

のいふかりま退く粘り立店りり僅存せり時

ハ化し様の変ありハ各等子候一のいつけり

去人本かり是を以て大ハ嘲り笑ひたりはれ

とも恐よのこくしりりと

カギツバコ 鼻烟 カギツバコ 鼻烟 といふるありこれハ乾煙の粗末し

たつあをよ一揚を鼻より鼻くするなりこれ邪氣の

外装を除くるとすのこれハ人こすろふなり其

カイコム 烟末を貯る器瓶ヲ肉入のいしよてそ細六粒粗

種ありき名をダハケーリカと云ふ

按和菓トスノイフ
ルコドー込と云ふ

女人絶て吃烟せず但右喫煙者ハを婦人とハ

よく用るものより喫て涕を垂らし鼻拭ハナツキを

拭て指を折て見受けたり

按ニ歐羅巴洲ハ何處の處とある婦人吃

タバコヲ

烟ハせずと和菓人云ひ

女子遠立の者の外ハ紅粉ベニコを糝アベ走ハシ男女髪カミハ

油をつけるなりポマタと云ふすき油の云々何ぞ

割るすのおうたはにがー捺ナベ臭し油を付らるよハ

ヤーボルキムツカと云ふ物を拵ツクリけおくヤーボルキハ

種タネの芋イモなりムツカハは粉コのりありハ但夫

菜蔬の終ハ
洋ナメ

のそかくつにたまる

按ニ和菓人ハ髪カミハ白粉オシロイを塗りて東京何物

あるの未だゆする是彼地方の風俗フウソクをが年と

と云ふものを成の姿カタをあるを考へたり

凡ツカサメを噴嚏クサメを打つるあれハこれをまきく人ヒトがラスケト

大元スタライ



子^孫も^れ 嘯^の たる人^ニ 比^シ 比^ト 謝^ス
あり あきと あきと 又^十ツドロイヤ^も これハ丁寧ニ書キ
礼する辭なり

此^ノ 意^ハ 勿^ク 我^邦 人^ノ 言^ハ 自^ラ 言^フ
 言^ハ 此^ノ 言^ハ 此^ノ 言^ハ 此^ノ 言^ハ 此^ノ 言^ハ





Handwritten text in cursive script (sōsho) on the right page, including a date and a signature. The text is partially obscured by the seal.

